



確かなデータをもとに 豊かな実践を

新潟県教育庁義務教育課長 小林 毅 夫

各地で教育実践に熱心に取り組んでおられる皆さんに敬意を表しながら、新教育課程の実施に向けて課題だと思うこと3点について述べてみたいと思います。

総合的な学習のじっくりした実践を積み重ねよう

総合的な学習の試行が進んでいます。雑誌その他であおられてきた総合的学習リーダーは越えたのかもしれませんが、それだけに、自分の学校の実践が、ねらいに確実に向かっているのかどうかを検討する必要があります。文部省では、大臣官房審議官が改めて「体験的な学習、問題解決的な活動を積極的に行い、各教科等で得た知識と結びつけ、総合的に働くようにしてほしい」と、知の総合化の視点を強調しています。

移行期に取り組んだ自校の実践を、安易に「これでいいのだ」と安心することなく、一人一人にどのような学習が成立しているのかを確かめなければなりません。そして、教育課程全体の中における位置づけを確認して、次年度の活動計画を真剣に考えていただきたいと思います。

学力問題について確かなデータをもとに考えよう

授業時数の削減、指導内容の厳選、総合的な学習の時間の創設等にかかわって、学力低下論が動き出しています。こうした動きの中で、直接学校現場を預かる者としては、いたずらに極論に動かされることなく、目の前の子どもにとっての基礎学力とは何か、学習指導改善調査研究事業の学力データと比較した自校の子どもの実態はどの位置にあるのか、中学校区で考えた時そのデータはどのような問題点があるのかなどを冷静に分析しなければなりません。

その問題点や課題に正面から立ち向かい、個別指導やグループ指導、繰り返し指導、T・T指導など指導方法や指導体制の工夫改善に取り組む必要があります。

地域づくりのエネルギーを生かしていこう

最近、「自分の地域の未来を担う子どもたちの教育をどうするか」という視点から、教育を巻き込んだ地域づくり、町づくりの動きが目立つようになってきています。学校週5日制への動き、急激に進む少子・高齢化、17歳の少年の事件とも関係しながら論議される幼児期からの子育ての問題、教育をめぐる地方分権化の動きなどが総合的に関連して、各地で新しい運動が動き出したと考えていいのではないのでしょうか。

各学校においてはこうした地域づくり運動、町づくり運動としっかり手を結び、多くの人々と語り合いながら、そのエネルギーを生かしていきたいものです。そして、地域に根ざしたより豊かな実践が進んでいくことを期待しています。